

『舞台機構調整技能士』 ～国家技能検定を目指せるカリキュラム～

舞台機構調整技能士とは？

国家技能検定資格の1つです。舞台機構調整技能士の仕事は、舞台機構の調整です。実際の仕事現場は、劇場やコンサート会場、ライブハウスで音響などの舞台機構の調整を行います。



音楽サービス創造学科だからこその特徴！

流通・販売、音楽サービス（舞台製作・イベント）、製造など、音楽・楽器技術に携わりながら活躍するための知識を多岐にわたり学んでいます。そのため、ピアノ調律師や管楽器リペアマン、ギター・バイオリン技術者、舞台技術者やイベントスタッフなど活躍のフィールドは幅広いです。

《国家技能検定試験も目指せるカリキュラム！》

1年生 アートフロテュース

舞台やホール管理の重要性が増している現在、その時代背景や役割を学び、インターン実習やボランティアを通して、舞台機構や機材、用具などのイベント運営業務のノウハウを身につけていきます。



2年生 舞台実務

様々な機器の取り扱いについて学び、正しい知識と技術を身につけPA演習などにて基礎を徹底的にマスターしていきます。

3年生 舞台機構調整技能士への挑戦

舞台機構調整技能士の資格取得を視野に学んだ技術をインターン実習の場やボランティアなどで実践するとともに、技術の定着や応用力を身につけていきます。



「舞台機構調整技能士」取得者

舞台実務の担任 大橋直馬先生のインタビュー

舞台実務の授業の魅力は？



本科の特徴かもしれませんが、総合的に様々な楽器や音楽を学びます。楽器の分解や組立、演奏授業による楽器の構造や仕組みの理解、楽典などの音楽理論や音楽の歴史など、音楽や楽器の基礎を学んだ上で舞台関連の学びを行うため、より高いレベルの舞台実務を行うことができますし、豊富なインターン実習などで実践力を身につけていきます。インターン先では『舞台技術だけでなく、演奏者の立場で考えることができる学生たちですね！』とよく言われます。

舞台関連企業に内定している！

先輩にインタビュー！秋山先輩(3年生)



本科の魅力は？

「進路の選択肢が多い」ことだと思います。1・2年次に鍵盤楽器や管打楽器、弦楽器、舞台や演奏、ビジネスなどの様々な学びがあり、総合力を身につけていきます。さらに、この2年間で、将来の進路を考え、自分の適性を考えながら専門コースを選択していきます。3年次は専門コース（ピアノ・管打楽器・ギター・バイオリンから選択）で知識や技術をさらに磨いていきます。私は最初の2年間で、「本当に自分がやりたいことは何なのか」をじっくり見極めることができ、3年生で進路にあわせた専門コースで技術を深めることができました。

